

平成27年度第1回健康長寿のまち・京都推進本部会議 市長訓示

平成27年6月24日（水）

市役所本庁舎E・F会議室

いよいよ本日、市民の主体的な健康づくりを全市的な運動として取り組む第一歩となります。私の思い、願いを述べさせていただきますと思います。

人類の究極の夢でございました、長寿社会、これがこの日本で、京都で実現できる、素晴らしいことであります。高齢化社会を前向きに、ポジティブに受け止めていきたいと思います。高齢期は人生のゴールデンエイジである、青春は青年期だと思ふ人もおります。知識はあっても経験がなかった、その時代から経験を積み重ねて知恵にして、そして高齢期こそが人生のゴールデンエイジだと、このように思います。そのためには、健康で自立していなければならない。これを若いときから、あるいは地域で、家庭で、職場で、組織的に取り組んでいく、これが何より大事だと思います。

同時に日本の医療費は、約39兆円、高齢期になりますとどんどん増えていく。この医療費が1割下がれば約4兆円、2割下がれば約8兆円を削減できる。これが毎年数%ずつ伸びていくというのが日本の現状であります。このことに真剣に取り組んでいく、こういう取組を京都から、京都ならではの地域力や人間力をいかした取組

を進めていく。現に京都のまちづくりを考えてみますと、地域の安心安全からあらゆることを高齢期の元気な方が支えていただいている。区役所の方はそう実感しているかと思います。

いわゆる団塊の世代が75歳以上となる平成37年には、高齢化率が30%を超えると見込まれています。素晴らしい高齢化社会が来るわけでございます。もちろん、若い人が子どもを産むことも同時に行っていくけれども、高齢者が元気でいきいきと、超高齢化社会を主体的にどうまちづくりにいかしていくのか、市民の皆さん、一人ひとりの幸せとどう結び付けていくのか、これは京都市財政を決定的に左右する要素にもなる、このように思います。

平均寿命と健康寿命を徹底して一致させていく、近づけていく、そんな取組を皆でやっていきたいと思えます。そのためには、個人も重要ですが、仕組みづくり、きっかけづくりが何より大事でございます。その仕組みに今、一生懸命取り組んでいます、地域のコミュニティの活性化、環境にやさしいまちづくり、歩くまち公共交通優先の取組、スポーツの振興、高齢者の生きがいづくり、生涯学習、あるいはどんどんボランティアをやっていただく。社会に貢献いた

だいている方は健康であり，認知症が少ない。あらゆるきっかけづくりをみんなで考えてやっていきたいと思っています。

徹底的に，施策を融合させることが大事であります。そのためには，各局区の皆さんが，市民，市民団体，企業，大学等に参画を呼び掛けていただいて，市民力を結集していただくことが大事です。いつも申し上げております，市民のハートに火を付ける，そうした取組を進めていきたいと思えます。

議会でも議論されていますが，この取組をしっかりとやることが，京都市財政の健全化にもつながる，人の健康にもなる，まちの健康にもなると確信しております。

あらゆる知恵を絞って取り組んでいきたいと思えますので，どうぞよろしくをお願いします。